

【特集】家族

その2

家族って何ですか？

前号では「家族あれこれ」をテーマに、「男女共同参画」の視点から、「家族」が抱える戸惑いや悩みについて考えてみました。第二弾の今回は、さまざまな家族が登場します。夫婦がともに働いている家族や自営業の家族、職人さんの家族に国際結婚をした家族。こうした様々な家族が、どのように役割を分担し、どんな家族を形作っているのでしょうか。また、日本と海外とは違いがあるのでしょうか。いっしょに見ていきましょう。



こんにちは。大学で男女共同参画について勉強しているヨシダです。前号に引き続き、いっしょに「家族」について考えてみましょう。

ヨシダくんの指導教官のオザワです。

今回は、どんな家族に出会えるでしょうか。ヨシダくん、さっそくだけと大安町で養鶏業を営む伊藤一男さん（52）、恵子さん（50）の家族を訪ねてみましょう。

伊藤家には、二十五才の長男から高校二年生の三男まで、男の子ばかり三人の子どもがいるんだけど、恵子さんが「炊事放棄宣言」をしたそうなの。いったい、何があったのか、聞いてみては？



—— 恵子さん、炊事放棄宣言って、炊事をしないことでしょうか？ 本当なんですか？

恵子さん 「はい。六年前、義母が亡くなってから放棄しました！」

となりで一男さんが苦笑いしています。

一男さん 「夫が家事をしてくれないって嘆く人には言うんです。あんたが家事をせんときなはれ。そうしたら、だんもするようになるからって。」

—— いきさつを教えてください！

恵子さん 「義父、

義母が亡くなり、養鶏の仕事をいよいよ夫婦2人でやっていたかんならんようになって…。



この人は、鶏の管理で、私はとにかく、できた卵を売らないかん。卵を売ってなんぼですから…。いつのまにか私が仕事の中心になって、帰宅が夜の十時、十一時。そんな時間から食事の支度をする気になれず、コンビニ弁当なんかですましてたんです。」

一男さん 「そうすると、わしがせんとおれなくなっただ。」

—— 炊事以外は恵子さんが？

恵子さん 「洗濯も時々この人（一男さん）がやっ

てくれますけど、自分の領域とは思ってないみたい。
洗濯、掃除は主に私が引き受けてます。」

— お互い納得しあっていますか？

一男さん 「なんで（炊事を）やらのやーと思わ
んでもないけど、見たらしんどそうやし、やらな
しやあない。」

恵子さん 「私の中には、少しだけ居心地の悪い部
分もあるんよね。夫にやらせてるのがいいのかどう
か…。これって刷
り込みかな？」

一男さん 「でも
まあ、仕事の面
で居心地がいい
ですよ。」



一男さん 「でも
まあ、仕事の面
で居心地がいい
ですよ。」

— 子どもさんにはどんな風についているでしょ
うね。

恵子さん 「私ね、二人目、三人目が小さかった頃
は義母に預けて、卵を売り歩いてました。子どもは
みんな育てていけばいいと思ってましたから。長
男の嫁さんにも言うんです。子どもができて後悔

する生き方はしたらあかんよって。長男、二男は、う
ちは母ちゃんが家族を引っ張って前を走っとるわー
と思ってくれてるみたいですが、高校生の三男は納
得してないかな…。」

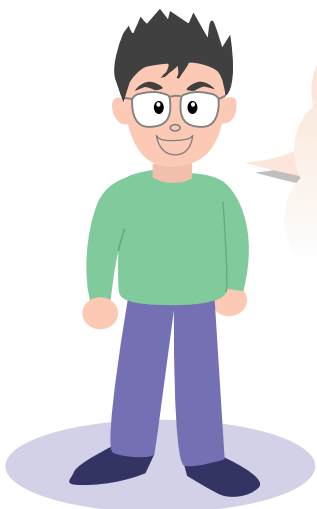
— 最後に家族って何でしょう？

一男さん 「うーん、難しいなあ」

恵子さん 「世の中の縮図かな？ 私が思い描いてい
る社会というか…。うちは自営で、養鶏が家庭生活
の中心にあるでしょ。養鶏を軸に家族を営んでいる
というか…。うまくいえないけど、そんな感じですよ。」



夫婦で養鶏業を営んでいる
せいか、男性、女性というよ
りは、それぞれの持ち味で仕
事や家庭の役割を分担してい
るんだなあ。



そうね。ともに家業を営み
ながら、妻だけに家事の負担
がかかっているのは、家庭が成
り立たないかも。



「男だから、女だから」に
とらわれないで、いい関係を
築いている家族が他にもいる
の。さあ、ヨシタくん、取材、
取材！



小林晴光さん(39) 中学校音楽教諭
薫さん(38) チェロ演奏家
奏太さん(11)
弦太さん(7)
四日市市在住

あなたにとって家族とは何ですか

晴光さん：よく『家族って空気みたいなもの』っていう人があるけど、それだと普段はその存在を意識していないようで、僕はちょっと嫌ですね。そうだなあ、「家族」とは音楽のようなものかな。

薫さん：どの音符が欠けていても、曲にはならないですから。家族で何かをはじめたり、決めたりする時は、全員で作曲をするようなものですね。

晴光さん：気づかなかったけど、何かをしたり、何かを決めるときは、すべて「家族」が中心になっていましたね。
家族を大切にできる人は、社会でも人を愛せると思います。

家事や子育ての分担はどうしていますか？

晴光さん：う～ん、あえて役割などは決めていないなあ。出来る方が、出来る時にするようにしているし、子どもたちも、手伝ってくれる。そうしていると自然と、弟は兄を見て育つようになるし。ただ、育児に関しては、ふたりで同じ事を言おうねって話し合いました。

僕から妻に希望することとして、仕事は続けてほしかったし、妻の音楽活動は、何があってもキャンセルできないので、家族のピンチの時は、僕が仕事を休むことが多いです。職場もこのことには理解がありますよね。

薫さん：家族の誰かが病気になったときは、夫が仕事を休んで、看病してくれることが多いです。

晴光さん：休みの日に、ふたりが揃っている時でも、妻が家事をするとは決めていないですね。『今日は、おとうさんが食事をつくるよ』と言って、子どもたちと一緒に食事の支度をします。これが、結構いける！

「我が家の自慢」を教えてください！

奏太さん・弦太さん：

うちのお父さんとお母さんには、得意な料理があつてねえ、どっちもおいしいよ。今度うちに来てよ、たくさん人が集まるんだよ。それに、図書館みたいに本がいっぱいあって、勉強は家でゆっくりできるんだよ。僕たち本を読むことが大好きなんだ。それがうちの自慢！



横山欣二さん(43) 陶芸家
雅子さん(37) 専業主婦
さよさん(2)
勢和村在住

あなたにとって家族とは何ですか

欣二さん：「源」焼き物でいえば「土」のような存在かな。

雅子さん：それじゃわかりにくいよ(笑)。全てではないけど「素」ってことでしょうか。

お二人：それがないと何もできない。

欣二さん：それがあってこそ仕事もがんばれる。結婚前からこの仕事をやっていて、「結婚した」、「してない」にかかわらず自分の中に仕事は一本の柱としてあるけど、**自分の生き方と作るものは繋がっている**と思うんだよね。やっぱり素が大事。ちゃんとした生活があって初めていい仕事ができる。

家族がいると一人でやっているより張り合いも出るし、作品も見方も捉え方も違ってくる。一人のときはアバンギャルドにやっていたけど、最近は作品に落ち着きと自分らしさを出しきれるようになってきた。そういうのはやっぱり家族を持ってからだね。今の生活全部がいいバランスを取れているんだと思う。

家事や子育ての分担はどうしていますか？

欣二さん：普段は雅子が全部やってるけど、僕が家で仕事をしているので空いた時間は子どもの面倒をみたりとかするよ。

雅子さん：欣ちゃんは掃除、洗濯、炊事何でもできるよね。

欣二さん：雅子が忙しい時は僕が何でもするって感じかな。ご飯も作るし風呂掃除とか(笑)。だから、家事をするのは男性とか女性とか、そういう固定した意識は全然ないんだよね。

役割分担も自然に今ようになったよね？

雅子さん：うん、誰かに言われてやっていたわけでもないし、二人で決めていたわけでもなく、自然に今のスタイルになっていったと思う。

理想の家族のイメージってありますか？

欣二さん：現実が理想みたいなものかな。僕達が似てる価値観、似てる生活スタイルだったから、無理もなく生活できてるんじゃないかな。生活が安定してれば、僕の方の仕事も無理がない。理想とか決めつけてると、堅苦しくなってしまうし、そういうのは、絶対じゃないけど、できないと思うから。できないことを自分の中で決めつけてたらひとりよがりになってしまうと思う。それより楽にというか、柔軟でいようと思っている。

雅子さん：私も、みんなが健康で、欣ちゃんが笑って焼き物作っていらればいい。

今まで三つの家族を見てきたけれど、どんな形であれ、家族みんなが、今の形に納得していることが大切なのかも。そこで今度は、小林充さん(36)、佳子さん(31)、長男、開路さん(4つ)の3人家族を訪ねてみました。充さんは会社社員。佳子さんは専業主婦。小林家の家族模様を見てみましょう。



— 充さんは仕事が忙しそうですね。

「出張も多く帰りも遅いし、平日は子どもの顔を見ることができない典型的なサラリーマン家庭ですよ。」

(ということで、インタビューは佳子さんだけになりました。)

— 家の中のことは佳子さんが全面的に引き受けざるを得ないですね。

「結婚前は私も総合職の仕事でバリバリ働いていましたが、二人ともセブーン・イレブンの働き方では家庭が営んでいけないあとと思って、私が仕事をやめたんです。」

— 不満はありませんでしたか？

「夫は、少年時代の夢が仕事という形で実現して生き生きとしていましたから…。余計に、自分が家に閉じ込められているように感じて、悶々と



していた時期もあります。でも、育ちあう家族でいようって結婚したのだから私も、何かを積み重ねていこうって…。市の情報誌の編集をしたり、通信教育もやりました。スーパードで公募してた『レシビ大賞』の賞をとることに燃えていた時期もあります。実際、賞をとりましたよ(笑)。」

— それはすごい！

「そうして私が社会との接点を持ち前向きになることで、ようやく思えるようになったんです。私たち3人は、家族を経営しているんだって。」

— 家族を経営？

「子どもが小さい今は、2人ともが外に出ていたら家族が倒産してしまう。これは私たち夫婦の一致した考えです。今は、夫がお金を稼いできて、私はそれを管理する。家計の管理はもちろん、家

族の健康管理や子育てが、今の私には本当に大事でやりがいのある仕事。福利厚生も担当しますよ。今度は、どこに旅行に行こうかなあって。だから家族の前でも家事を『仕事』と呼んでいます。」

— 家事の分担は難しい？

「『悪いけど家事は僕にはできない』と言って、彼が衣類乾燥機を買ってくれました(笑)。」

充さんが出張から帰って来た後、お二人にもう一度お話を伺いました。

充さんから反論です。

充さん「えー、何だか僕がお金で済ますだけの男みたいだよ(笑)。時間がないだけで手伝う意欲はあります！ 休日は風呂洗いもするし、開路の面倒も見ると…。」

佳子さん「そうですね。休日は子どもべったりでいてくれますから。私は食事の準備の前に『ちょっと休憩に入りませう』って一時間、ごろごろ、本を読んだりしてます(笑)。」

— 最後に、家族って何ですか？

佳子さん「空気のようなもの。家族の存在が負担にならずに存在していて、いっしょにいないくてもどこかでつながっている。それでいて、ないと生きていけないもの。」

充さん「宝です！」

ところで、外国から日本の家族を見てみたら、
 どうなのかな？そう思って、オザワ先生に紹介し
 ていただいた家族に会いに行きました。



キム ジョンソン ラ キョンニム
金 貞成さん (30) 羅 景王さん (31) 韓国



金さんは現在三重大学工学部博士課程に在学中。

平日は研究がとても忙しく帰宅が深夜になることもあるため、なかなか家族と一緒にいる時間が持てないそう。でもその分、休みの日は家事や子どもの相手を積極的に分担しているとのこと。「洗濯は洗うことから取り込んでたむまで、全て夫の仕事です」と妻の羅さんは笑います。

お二人に韓国と日本の家族の違いを聞いてみました。「あまり違いは感じられないですね。でも日本の男性の方が家庭的なイメージがあります。」羅さんは、保育園の行事や子どもの送り迎えに父親が来ているのに、とても驚いたそうです。「韓国でも若い世代は夫婦で家事や育児を分担することが多くなってきていますが、保育園に父親が顔を出すということは、まずありません。」

金さんは一昨年の秋、家族より一足先に来日したそうですが、一年近くにわたる異国での一人暮らしは寂しくて仕方なかったと言います。そんな金さんに家族とは何ですか？とお聞きしたところ、「自分が存在する場所。家族がいらないなんて考えられません」という答えが返ってきました。

羅さんにとっては、家族は「癒しの場」だそうです。

リ セイ 李 青 (日本名細井青華)さん (39)
 ミロ 路露さん (4)



「たまたま好きになった相手が中国人だっただけ。」

現在、共に日本の大学で教鞭を取っている、和彦さん、李青さん。

留学経験でそれぞれの国の文化を知っており、また、共に相手の母国語を理解できたため、コミュニケーションに影響はなかったとのこと。

仕事柄、海外出張などが多いので、家事・育児については、「特に分担を決めずにお互いできる方がしている」そうです。中国の友人には、日本の男の人は家事をしないイメージがあるらしく、「よく驚かされていました(笑)。」

理想の家族像は？との問いに、「『理想は今の延長上』、それを維持していくこと。細かい不満はないことはないけど、あまり二人ともストレスをためない性格なので、今の生活に不満はありません。子どもにも大きくなったら、自分のことは自分で出来るようにさせたいですね」とおっしゃっていました。

最後に家族とは何ですか？とお聞きしました。

「家族とは空気みたいなもの。普段は意識していないんですが、いなくなった時に心にポッカリ穴が空いた気がしたんです。精神的な安らぎを得ることが出来るころですね。」

ドイツマー・シュレンカーさん (31) シュレンカー・長谷川香織さん (29) ドイツ在住



日本で出会い、昨年ドイツに渡って、結婚をされたお二人。ドイツマーさんは、日本でもドイツでも、家族に対する愛情、気配りなど一番大切な部分は変わらない、と言います。普段の生活での関わり方はそれぞれ異なるけれど、どちらも心地よいものだそうです。

現在、ドイツマーさんは会社員、香織さんは専業主婦。お互いが仕事をしていた時は、家事もかなり分担していましたが、今は食事作りをはじめ、ほとんどの家事を妻がしているとのこと。でも、役割を決めているわけではなく、「夫婦とも家事は2人で協力してするもの」と思っているの、時間があるときは、夫もアイロンがけなどするのだそうです。

香織さんは、現在「2003年2月に第一子を出産予定」子供が生まれてからのことも、今から話題になっています。育てる場所、話す言語などは、国際結婚ならではの話題ですね。仕事が忙しくても、コミュニケーションがとれるようにと、育児も夫婦が一緒になってするものという意気込みを感じます。

もうすぐ、新しい家族を迎えるお二人に聞きました。「家族とは何ですか？」

「棒切れ一本を折るのは容易だが、束になった棒を折ることはできない」とドイツマーさん。

「自分が一番自然でいられる場所」と香織さん。

特集を振り返って

特集「家族」の第二弾、いかかでしたか？

今回の特集で登場していただいた「家族」の方々に、「あなたにとって、家族とは何ですか？」という質問をしてみました。

みなさん最初は「うーん、難しいなあ〜」としばらく考えてから、それぞれ個性溢れる、いろいろな答えが返ってきました。どのお答えも、素敵な言葉に思えます。人に個性があるように、家族にもそれぞれ個性があるんだなあ〜と。どのスタイルが一番良いなんてことはないのだと思います。こうあるべき、と決めつける家族像なんてないですよ。だって、同じ家族はひとつもないのですから。

また、それぞれの家族は、時間の経過とともに、時には形が変化していくこともあるでしょう。その過程こそが大切なのではないでしょうか。

「男女共同参画」と聞くと、難しいと思われるかもしれませんが、お互いを認め合い、私らしく、あなたらしく生きられたら、そこから始まっていくのではないかと感じました。

日本まんなか共和国女性サミット 〜2002福井〜参加報告

11月2日(土)から3日(日)、福井県で「日本まんなか共和国女性サミット〜2002福井〜」が開催されました。このサミットは、三重・福井・岐阜・滋賀の4県の様々な分野で活躍する女性リーダー等が一堂に会し、今後の取組みについて考える機会を設けるとともに、男女共同参画社会づくりに向けて4県の連携を図ることを目的としています。

三重県では、サミットに合わせて三



女性リーダー三重県代表による意見発表

重県独自のワークショップの持ち方についての研修会を行うなど、4つのカテゴリ(①女性リーダー、②合同ワークショップ開催、③一般参加、④研修支援)に総勢42名の参加がありました。

一日目は女性リーダーの交流と位置づけ、各県代表一名による意見発表、各県10名総勢40名による意見交換会が行われ、三重県からはJAM(女性連絡会議会長である野口佳子さんが「男女が輝ける農村社会の実現をめざして」と題して、農業分野における意思決定の場に女性が進出することの難しさと大切さをご自身の体験をもとに発表されました。

二日目はミニコンサートの後、内閣府男女共同参画局長、坂東眞理子さんの記念講演がありました。

記念講演では、21世紀の最重要課題として経済や外交、教育などあらゆる政策を考えるにあたり、男女共同参画の視点を反映することが必要

である、という指摘や、男女共同参画に関する基本的な考え方や国の動向についての具体的な説明がありました。

さらに、午後の分科会では「家庭・地域での慣習の見直し、意識の改革」「農山漁村の男女共同参画の確立」「働く場における男女平等の実現」「女性に対する暴力の根絶」の4つのテーマで6つのワークショップが開催され、三重県からも4グループが参加しました。どのワークショップも会場に入り切れないほどの盛況で、複数の県から参加したグループが合同でワークショップを開催し、工夫を凝らした発表で、会場からも多数の意見が出る活気あふれるものでした。

続く全体会ではワークショップの成果をまとめた後、サミット宣言を採択し、来年度の開催県である岐阜県に引き継いで閉会しました。

四県共通のサミットの日程はこれで終了ですが、三重県はワークショップの持ち方について独自の研修会を開催しました。

この研修会では、サミットでのワ



参加者の熱がこもった三重県独自研修会風景

ークショップはもちろん、参加者が今までに行ったワークショップの形態を実演を交えて紹介するなどの方法でさまざまな形態のワークショップを知ることができ、大変有意義な研修となりました。

今回参加された方々のネットワークを今後の活動に活かしていくとともに、平成16年度の「日本まんなか共和国女性サミット」三重県開催に向け、平成15年度もたくさんの方々の参加をお待ちしています。

みえの男女2003

未来社会のデザインは男女共同参画社会です

みんなちがって みんないい

「男だから」、「女だから」。

そんな考えに縛られていた社会から、

一人ひとりの個性が彩る

ゆたかな社会へ。

変革の21世紀を共に生き、

創りあげていくための

ヒントをここで見つけてみませんか

男女が対等な立場で、社会のあらゆる分野に共に参画し、責任を分かち合う男女共同参画社会の実現は、重要かつ緊急の課題です。

その実現のためには、県における取り組みに加えて、市町村、企業、NPO、更には県民の皆さんの取り組みと、それらの連携が必要となります。

男女共同参画社会づくりに向けて、県民のみならず、県内での取り組みの促進と、気運の醸成を目的に、男女共同参画フォーラム「みえの男女2003」を開催します。

●開催日 2月28日(金)、3月1日(土)

●場所 三重県総合文化センター(男女共同参画センター、文化会館中ホール 他)

●内容

【2月28日】

午前10時～12時

○農山漁村の「とどろ」創る「守る」男女の「とどろ」

～農林漁業の現場から考えます。食と環境、そして新しい社会を～

○ワークショップ(10会場で開催)、ポスターセッション

午後1時～4時

○基調講演「少子高齢社会をどう生きる?」

～お笑いエンター論～

講師/東京大学大学院総合文化研究科助教授

瀬地山 角さん

○三重県知事特別メッセージ

○男女共同参画シナリオコンクール受賞作品発表 他

【3月1日】

午前10時～12時

○ワークショップ(8会場で開催)、ポスターセッション 他

午後1時～4時

○「男女がいきいきと働いている事業所」知事表彰受賞企業事例発表

○シンポジウム

「未来社会のデザインは男女共同参画社会です」

～あらゆる意思決定を男女共同参画で～

○シンポジスト/

(財)横浜市女性協会顧問 有馬 真喜子さん

とよなか男女共同参画推進センター館長

三井 マリ子さん

内閣府男女共同参画局総務課長

佐藤 和寿さん

住友電装(株) 人事部部長 辻 久男さん

※両日ともフレンテみえエントランスホールにて、

グループ活動展示を実施

●託児 有り 1歳6ヶ月～就学前まで

託児料500円、20名程度先着順

●申し込み・お問い合わせ

申し込み締め切り 2月12日(水)

三重県共同参画センター「フレンテみえ」

TEL 059-233-1130

FAX 059-233-1135

e-mail frente@center-mie.or.jp

*フレンテみえのホームページ

(<http://www.center-mie.or.jp>) からも申し込みができます。

★みえの男女2003は、公募等で集まった16名の実行委員の皆さんを中心に企画・運営しています。

今年の8月上旬に第1回の実行委員会を開催して以降、月数回のペースで話し合いを続けていますが、熱中するあまり、時間の経過を忘れてしまうこともしばしばです。

そんな熱い思いの詰まったフォーラムに、一人でも多くの方にご来場いただきたく、実行委員全員が、持てる英知を結集して頑張っています。どうぞご期待ください。



相談の曜日・時間

相談内容	曜日	日	月	火	水	木	金	土
電話相談		10:00~15:30		10:00~15:30				
面接相談(予約制)			休館日				10:00~15:30	
法律相談(予約制)							第1・第3週 13:30~16:30	
男性のための相談							第4週 10:00~12:00	
女性のための性からだの相談(予約制)							第2週 13:00~14:00 (電話相談) 14:00~15:00 (グループ相談)	
三重県立看護大学助産師による相談						13:00~15:00		

★『電話相談』及び予約の申し込みは☎059-233-1133

★『男性のための相談』及び『助産師による相談』は☎059-233-1134

はい!

フレンテみえ相談室です



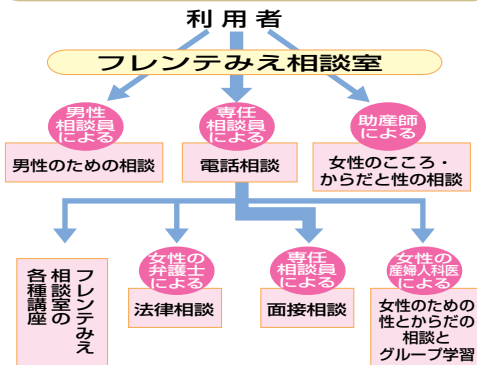
困ったなと思ったらひとりで悩まないで…。まず電話相談のご利用を

電話だけでは解決が見つからない場合、面接相談を利用することもできます。

さらに専門的な助言が必要な場合には、女性の弁護士、女性の産婦人科医師による専門相談も利用できます。

相談の内容によっては専門の相談機関を紹介します。

問題解決への流れ



「ドメスティック・バイオレンスに関する討論会を開催しました」平成13年10月13日に「DV防止法」が施行されてから1年が経ちました。

この法律は、我が国において配偶者からの暴力を抜本的に取り上げた最初の法律で、配偶者からの暴力が犯罪となる行為であることを明示しています。

平成12年10月警察本部・女性相談所・人権センター・男女共同参画センターの相談員が連携を深め相談者を支援していくために「男女共同参画ネットワーク会議」を発足させました。

そして、情報交換、ケース検討、DVの未然防止、被害者支援を目的とした研修、啓発等を実施してきました。

去る11月12日、三重県と「男女共同参画ネットワーク会議」は『暴力のない社会をめざして 今 あなたができること』をテーマに講演と討論を行いました。ウイメンズカウンセリング京都の井上摩耶子さんが「DV防止法と心理的サポート」をテーマに講演をされた後、福祉関係機関の担当者・弁護士・ネットワーク各機関から現状報告と効果的な支援、連携のあり方などについて討論をしました。参加者のみなさんに県の相談機関が連携をしてDV被害者・加害者からの相談を受けていることを知っていただくことができました。一人ひとりが自分の問題として『暴力のない社会をめざして 今 あなたができること』を行動に移していくことがDVのない社会を実現させていくこととなります。

DV被害、加害について相談するという行動はとても勇気とエネルギーのいることですが、何らかの問題を抱えて一人で困って悩んでいる方は、どうぞお気軽にまず「フレンテみえ相談室」へ電話をしてください。

【お知らせ】

平成15年1月25日(土) 午後1時30分~4時00分/松阪市産業振興センターにおいて「DVセミナー」を予定しています。

編集後記

★稲岡張美



「私たちは、今、何をすべきか」男女共同参画社会を本音で語り、ジェンダーと向き合い、決して1人ではない自分を発見しながら生きることに努力する様々な「家族」に出会うことができました。

「みんなちがって みんないい」そんなフレンテのテーマが、とてもステキに響いた、すばらしい家族の生き方がありました。

★小谷尚子



結婚当初、夫がボツンとひとり言。「一人の時は気楽だった。」確かに「家族」の一員になることは、面倒くさいことも多いのかも。本文中にもある「家族の存在が負担にならずに存在する」ということは、なるほどなあ。

★瀧本祐里



色々な家族に出会って思いました。新しい家族が生まれて、若葉がやがて色付くように、「家族は変化していくもの。」その変化を受け入れる柔軟性を持つことが、「自分らしさ」を大切にできる秘訣なのでは？

★山本洋



今回は僕にとって初取材だったのですが、この取材は僕にとって何にも代えがたい経験になりました。どんな回答にもその人の人の考え方、生き方があり、その一端を垣間見ることにより、僕自身の世界も広がって行くような気がしました。

1月

18日(土)

男女共同参画推進事業 講演「私の生き方」(手話通訳有り)
場所/東員町総合文化センター ひばりホール
●東員町婦人会連絡協議会・東員町・東員町教育委員会
講師/中村 メイコ 東員町生活環境課 TEL:0594-86-2807 FAX:0594-86-2851
男女共同参画条例作りの提言に向けて ~ともに学びあうことから~ 場所/本町プラザ
●カモミール2001
概要/講演とトーク「男女共同参画条例づくりの提言に向けて~ともに学びあうことから~」
講師/中島 美幸 四日市市女性センター TEL:0593-54-8331

23日(木)

男女共同参画講座「なぜ必要?男女共同参画」(手話通訳有り)
~居心地いい場所ありますか?みんなが生き生き暮らせるために~
場所/東員町総合文化センター 2F講習室
●東員町生活環境課
概要/男女共同参画の必要性の基本を聴き、納得をして男女共同参画社会の推進を図る
講師/中島 美幸 東員町生活環境課 TEL:0594-86-2807 FAX:0594-86-2851

2月

2日(日)

男女共同参画宣言都市奨励事業 市制70周年記念事業「松阪フォーラム~人・街・夢の集い~」
場所/松阪市民文化会館 サンライフ松阪体育室
●松阪市 松阪フォーラム実行委員会 松阪地方県民局
概要/記念式典 講演「個が輝くとき」 映画「老親」上映 他
講師/落合恵子 松阪市男女共同参画室 TEL:0598-53-4339

4日(火)

子育て「ほっと My Time」 講演会「おかあさんだってほめられたい」
場所/鈴鹿市男女共同参画センター ジェフリーすずかホール
●鈴鹿市・三重県生涯学習センター・三重県教育委員会
講師/北村年子
鈴鹿市市長公室 男女共同参画センター TEL:0593-81-3113 FAX:0593-81-3119

23日(日)

つどいよっかいち女(ひと)と男(ひと) ~パスワードはジェンダーフリーから
場所/本町プラザ 四日市市女性センター なや学習センター
●つどいよっかいち女と男実行委員会 四日市市
概要/「世界中のひまわり姫へ」上映とトーク、ワークショップ他
四日市市女性センター TEL:0593-54-8331

Coffee Break

家族みんなで楽しむコンサート・シリーズ第2弾

仲道郁代ピアノ・リサイタル



世代を問わず、ひとりでも多くの方にクラシックの感動をお届けしたい。そんなコンセプトから誕生したこのコンサートシリーズ。子供から大人、初心者からクラシックファンまで、全ての人に感動を与える名曲の数々を、当代一流の演奏家が楽しいお話とともに贈ります。

クラシックを身近に感じていただきたいから、入場料は1000円。家族みんなで気軽に楽しんでいただける、高水準・低料金のプラチナコンサートです。

シリーズ第2弾は、優しく温かい語り口と高い音楽性で人気のピアニスト、仲道郁代さんです。ご本人による選曲・曲順で詩情溢れるピアノとお話をお楽しみ下さい。

未就学児託児実施(未就学児はコンサートに入場できません。)

日時:平成15年3月16日(日)

会場:三重県文化会館 大ホール

開場:15:30/開演:16:00

入場料:指定席1,500円 自由席1,000円

チケット好評発売中

チケット販売所:三重県文化会館チケットカウンター、チケットぴあ、県内レコード商組合加盟店

託児:0才~就学前対象。完全予約制(2週間前まで)、先着順(お早めにお申込ください)、子ども1人につき1,000円(おやつ代含む)、申込・詳細はチケットカウンターまで。

主催:三重県/三重県教育委員会/(財)三重県文化振興事業団

問合せ:三重県文化会館チケットカウンター

TEL:059-233-1122

INFORMATION

インフォメーション

フレンテみえからのお知らせ

●グループ登録しませんか？

三重県男女共同参画センターに登録していただけるグループ・団体を募集しています。登録していただくと、センター主催の講座・イベント等の情報をお知らせするほか、グループ活動の場として、サークル室やリサーチ室をご利用いただけます。チラシ等の印刷に

は輪転機をお使いいただくことも可能です。

また、グループではなく個人で活動をされている方、男女共同参画に関心をお持ちの方には、個人登録というシステムもあります。(但し、施設の利用条件等、グループ登録と異なる点があります。)登録を希望される方は、登録用紙を郵送いたしますので、ご連絡ください。

読者の声

男女共同参画のバロメーターは、どれだけ多くを語れるかではなく、一人ひとりが、どれだけまわりの人間関係の中でそのことを実行しているかだと思います。

今回取り上げられた「家族」は、一番本音が表れ、かつ外からは見えにくい関係ですね。「家族の形は家族の数だけ存在するもの」と、確かにその通りでしょう。形にこだわりすぎることなく、お互いに対等のパートナーとして協力し合って生きたいと願っています。

(津市六十代女性)

皆さんの声をお聴かせください。

ご意見をお寄せいただいた方の中から抽選で3名の方に「図書券」をプレゼント。

各コーナーへのご意見、ご感想はハガキ・ファックス又は、E-mailにて右記までお寄せください。

三重県男女共同参画センター フレンテみえ

〒514-0061津市一身田上津部田1234番地

FAX.059-233-1135 E-mail:frente@center-mie.or.jp



BOOK & VIDEO

【BOOK】



『21世紀家族へ [新版] 家族の戦後体制の見かた・超えかた』
落合恵美子著 ゆうひかく選書

戦後の社会変化の中で、日本の家族はどのような変化を経てきたかを振り返り、これからの家族の進む道を非常にわかりやすい語り口で説いています。

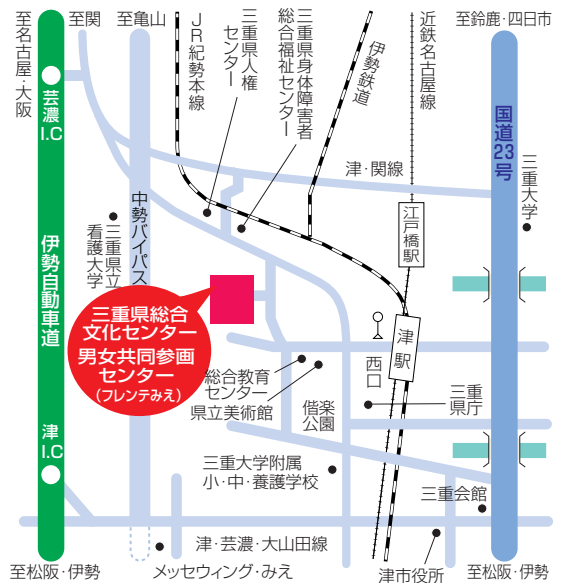
【VIDEO】



『“Stick and Stones” 自分らしく生きる ~やわらかい家族のかたち~』
カナダ国立フィルム省

家族とジェンダーについて考えるドキュメンタリー。他人との違いをいかに受け入れるかを、子ども達率が率直な言葉で語っています。

三重県男女共同参画センターまでのご案内



休館日

●毎週月曜日 ●年末年始(12月29日から1月3日まで)

交通

- バス/津駅西口1番のりばから約5分
 - 徒歩/津駅西口から約25分
 - 自家用車/伊勢自動車道 芸濃インターから約15分津インターから約10分
- ※駐車場は、1,400台(無料)。できるだけ、公共交通機関をご利用ください。

MIE CENTER FOR THE ARTS
三重県総合文化センター

三重県男女共同参画センター

URL <http://www.center-mie.or.jp/>

E-mail frente@center-mie.or.jp

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地 TEL.059-233-1130 FAX.059-233-1135